epoch

エポック No129号
～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
令和5(2023)年 12 月発行

第14期第7回　概要報告

令和5年9月 12 日、第 7 回生涯学習推進委員会議が開催されました。
今回は東京都教育庁指導部山本課長にお越しいただき、部活動の地域移行に関してお話しを伺ったのち、今期提言の骨子案について説明と意見交換を行いました。
以下、概要をお伝えいたします。

1. 東京都における部活動の地域移行の考え、課題と展望

東京都教育委員会の部活動担当、教育庁指導部山本一之介課長より「東京都における部活動の地域移行の考え、課題と展望」について資料をもとに背景と方策などを説明いただきました。

〇少子化や人口減少により部活動ができなくなる学校が増える、その解決策として地域連携や地域移行を推進していくこととなる。
〇教員の部活動指導負担軽減のために、外部の専門家を活用する。
〇東京都教育委員会が設立した人材バンク(東京学校支援機構)を活用し、部活動指導ができる人材を確保することが重要。
〇学校部活動から地域クラブ活動への移行については、保護者の負担についても考慮する必要がある。「学校・教師が担う業務に係る3分類」について(1)学校以外の人が行うべきもの(2)先生以外でも可能なもの(3)先生が行うものとなっており、(3)の業務として教員免許を持っている人だけが行える授業の運営が挙げられる。
〇部活動改革や学校の働き方改革についての国の方針、都内教育現場の改善や子どもたちのための新たな取り組みに役立つ事例を紹介。

❓地域連携と地域移行の違い　地域連携　部活動を学校内で行うが先生は指導せず外部指導者が担う
地域移行　部活動を完全に外部で担う

＜参考資料 URL＞　東京都教育委員会　未来へ　つなぐ　部活動改革　リーフレット

都内公立学校保護者用　　地域関係者用

【東京都の取り組みに関する質疑応答・意見交換】

〇地域移行における責任の所在は？
→学校や業者による運営によって責任が変わる。
〇外部人材の導入について、オーストラリアなどは学校の訪問者に対する厳格な対応例があるが、セキュリティや非犯罪証明などの取り組みは？
→セキュリティ設備やデジタルの仕組み、人材の募集資格や研修など、多面的な対策が必要。
〇千代田区は部活動を地域移行した場合、地域に体育施設が少ないので、学校の施設を使用し運営を外部に任せるといった方法になるのではないか
→区市町村さまざま。地域連携と地域移行の中間的なもの、学校施設の利用や警備員雇用など、学校の先生の負担を増やさない方法の検討が必要。

〇東京学校支援機構の人材バンクの取り組みについて各区との連携状況はどうか
　→今登録している人材の紹介は可能であるが、人材バンクの登録者数の増加が重要。これは東京都教育委員会が大学や企業に周知・登録を促進している。
〇東京学校支援機構を利用した場合の外部人材が起こした事故等の責任はどうなるのか
　→人材を学校の中に入れることは学校の中の部活動なので、学校や教育委員会が行うこととなる。

2. 第14期提言の骨子について

令和4年5月の第1回会議から、これまで計7回にわたる議論の内容を集約した提言の骨子案が作成され、説明が行われました。

（タイトル案）千代田区の特性を踏まえた人材育成と支え合う生涯学習

（内容案）
- 部活動の地域移行への流れと課題
- 千代田区の現状
- 地域人材の育成と支え合う関係づくり
- コミュニティの輪としての連携を基本とする。
- 地域に人材をフィードバックする取り組み（検討会の設置）

【意見交換】

①千代田区の特性である昼間人口と夜間人口の落差を踏まえ、昼間人口を区民として捉え、そのエネルギーとリソースを引き上げ、文化系部活動で活躍いただくなど交流を図ってはどうか。

②地域の教育プログラム「ちよカレ」の目的と実態が一致していないため、ちよカレの方向性を再検討し、目的に合わせて再出発するべきではないか。

（事務局回答）これらの意見を反映させる形で検討を進めたい。

③第1分科会と第2分科会の提言を一つにまとめる必要性があるのか、域移行の話と生涯学習の体制の話を一緒にすべきでない、提言を二つに分けるべきではないか。

（事務局回答）提言の形に特に決まりなくの一つにまとめることも可能であるが、地域移行の問題や千代田区の特性を考慮し、提言を二つに分けた形で、次回素案を提示したい。

＜その他＞　千代田施設「ちよカレ」についても議論が行われ、その目的や管理体制の見直し、定員問題などについて検討することが提案された。

次回生涯学習推進委員会議は、12月15日（金）に開催されます。

リレー随筆

“桜日和”はみんなのオアシス！？

多賀谷　充

先日、九段生涯学習館での長唄の練習を終え、仲間と区役所食堂に開店した“桜日和”にやってきました。皇居を望みながらのハッピータイム、たちまち昭和のちょい飲みオジサンに変身。広い食堂には夕食をとる職員の方々がちらほら。ふと見ると、少し離れて二人の女子中高生？が楽しそうにご飯を食べています。図書館で勉強していたのかな？

昭和のちょい飲みオジサンたちが子供のころは、茶の間で勉強するのも普通でしたし、学校帰りに友達の家でご飯を食べさせてもらうこともありましたね。高校生になると大学生のお兄さんお姉さんに交じって御茶ノ水の中央大学の学食にも潜り込んでいました。かつては、何となく子供たちを見守っている大人がいる空間がもっとあったような気がします。

生涯学習推進委員会議でも、今、子供たちの居場所の確保が社会的課題と聞きました。小学生には学童が設けられているものの、中高生にはまだ種々の取り組みが試されているところとのこと。埼玉県の子供を縛る非常識な条例案が騒ぎを起こしましたが、子供たちにとって自由でありながら安全・安心な環境が求められていると思います。

千代田区では議会で取り上げられ子供の居場所づくりが進められているそうですが、“桜日和”でも真面目な職員とちょい飲みオジサンが何となく子供たちを見守っていますよ。意外に安全で安心な子供たちの居場所かも？子供たちにもハッピータイムを！

部活動の地域移行について

林　勝則

部活動の地域移行とは、従来学校教員が担ってきた部活動の指導を、地域団体や関係事業に担ってもらうことで地域の活動に位置づけることを指しています。こうした取組を国では「地域部活動」と呼んでいます。

地域移行が求められる背景には、児童生徒のニーズの多様化、生徒数減少に伴う部活動メニューの縮小、教員数の減少と勤務負担増などが指摘されています。

そもそも部活動における地域連携は、1996年の中教審答申が「学校のスリム化」の観点から、「地域社会にゆだねることが適切かつ可能なものはゆだねていくことも必要」だと述べたところに起因します。この答申以後、学校の働き方改革の視点から、教員の業務負担の軽減策の一つとして地域移行が現実味を帯びてきたのです。

地域移行をめぐっては賛否両論ありますが、そこにはメリットとデメリットがあるからです。メリットとしては①児童生徒の選択肢が広がる②専門的な指導が受けられやすくなる③教員業務のスリム化が期待できる、等があげられます。その一方①指導者や受け皿の確保が容易ではない②児童生徒の安全上の不安がある③保護者の経済的負担が求められる、など様々なデメリットも指摘されています。

部活動の環境の変化は、いうまでもなく生徒にも影響を及ぼすことになり、地域移行は上記メリット・デメリット等勘案の上、地域の実情に応じて進められるべきでありましょう。

【編集／発行】千代田区　地域振興部　生涯学習・スポーツ課　〒102-8688　千代田区九段南 1-2-1
TEL：03-5211-3632　／　FAX：03-3264-1466　／　Mail：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp